

ひまわりさんぽみち 暇・回・散・歩・道

コースガイド

「暇回散歩道」は、歴史や緑といった南区の特色を生かした歩行者空間として、まちを歩き、区民の皆さんの意見をもらって設定した散歩コースです。

暇をみつけて、ぶらりと南区の魅力を訪ねてください。知らなかったまちの顔が見えてくるかもしれません。

歴史と緑のみち (P26)

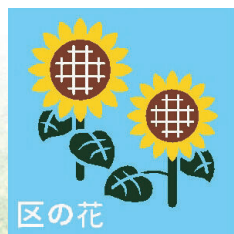
「笠寺西門」を出発し、一里塚を経由して中井用水緑道、大江川緑地を通り、大同方面に向かうコースです。歴史と緑、両方が楽しめます。

歴史探険浪漫のみち (P27)

「笠寺西門」をスタートし、笠寺観音・富部神社などたくさんの史跡を訪ねます。玉照姫や宮本武蔵にまつわる史跡もあります。

癒やしと憩いのみち (P29)

大江川緑地東端をスタートし、花壇やせせらぎ水路で植物や水の流に親しむコースです。地元企業のハーブ園も心をなごませてくれるでしょう。



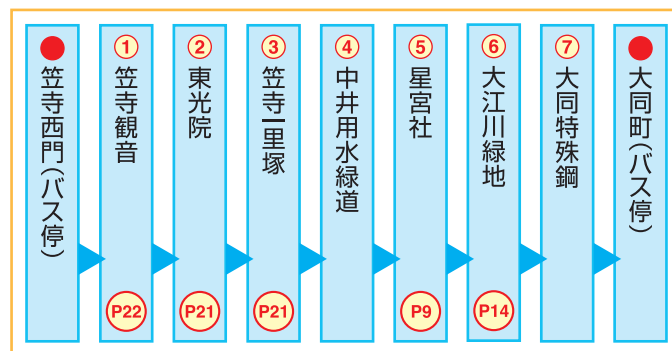
コースに設置した路面表示を目印に歩いてください

照会先 名古屋市南区役所地域力推進課
TEL823-9325 FAX811-6360
<https://www.city.nagoya.jp/minami/>



歴史と緑のみち

約4.8km



※史跡解説は該当ページを参照

大江・笠寺みどりの散歩道構想

南区の中でも特に緑が多い大江川緑地から中井用水緑道を通じて笠寺公園につながる緑の軸を「大江・笠寺みどりの散歩道」とし、自然にふれあえる歩行者空間をつくる構想です。

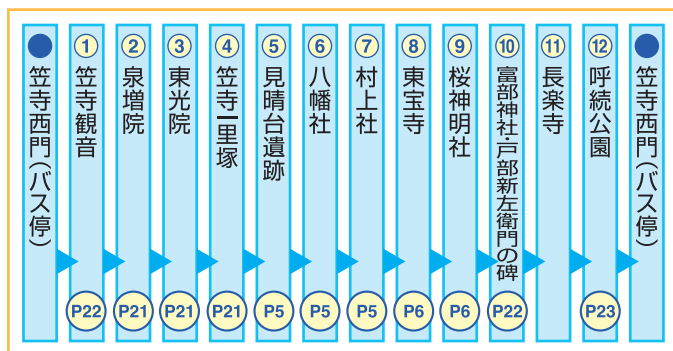


「暇回散歩道」は、この構想をもとに歴史的要素を加味して市民参加でつくられました。



歴史探険浪漫のみち

約5km



※史跡解説は該当ページを参照



はみ出し史跡紹介 青木地蔵

この地蔵には、布端を供えて願をかけると美人になれるという言い伝えがあります。

「青木」の名は昔笠寺村に織り機を広めた青木源衛門という人物からきています。

玉照姫伝説

玉照姫のお話は、南区に古くから伝わる平安時代のシンデレラストory。

もと美濃国の豪族の娘玉照姫は、あまりの美しさゆえ不運な運命に巻き込まれ、鳴海の長者の召使いとなってしまいます。

不遇な生活を送りながらも玉照姫は決して希望を捨てません。いつも呼続の里の街道わきにあった観音像にお祈りしていました。

ある雨の日、ずぶぬれになっていた観音像に自分の笠をかぶせてあげた玉照姫は、たまたま通りかかった藤原兼平という男性に出会います。藤原兼平は都の貴族で、後の関白藤原基経の三男です。

兼平は、心優しい玉照姫を見初めて猛烈にプロポーズ。めでたく結婚した二人は京で幸せになりました。

その後、二人の出会った思い出の土地には、現在の笠寺観音が建てられ、笠をかぶった観音像が祀られたということです。



宮本武蔵の足跡(笠寺観音、東光院)



剣の達人「宮本武蔵」

は、巖流島の決闘の後、仕官のため尾張藩を訪れ、現在の南区笠寺、東光院

を宿坊にしたと伝えられます。

藩主徳川義直の前での御前試合や柳生兵庫助との邂逅など逸話が多く残っています。

武蔵の百回忌に弟子によって笠寺観音に顕彰碑が建てられたとき、武蔵が逗留した縁でその遺品三品(自筆の書、自作木刀、肖像画)が東光院に奉納されたといひます。



肖像画

東海道2051年へのメッセージ

東海道は南区の代表的な歴史資産であり、街道の周辺には笠寺観音や笠寺一里塚、富部神社など有名な史跡があります。

平成13年(2001)、東海道の宿駅が敷かれてから400年を経たことを記念し、全国的に記念行事が行われました。南区でも地元の人を中心に「南区東海道宿駅制度400年記念事業」が行われ、パレードやクイズラリーなどで東海道は大にぎわいに。

翌年、この事業の成果を後世に継承するため、写真やメッセージを入れたタイムカプセルが長楽寺境内に埋められました。これは、宿駅制定450年となる2051年に開けられることになっています。

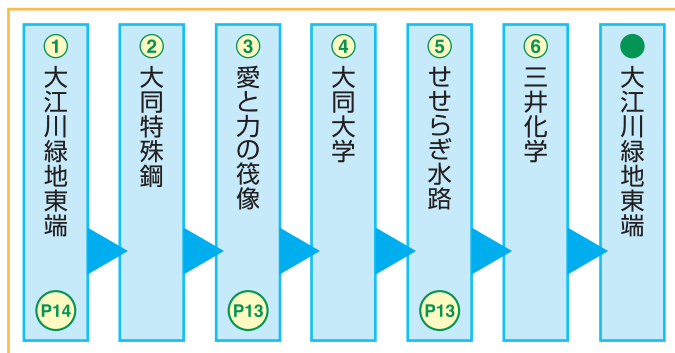


400年記念石碑の立つ長楽寺



癒やしと憩いのみち

約6km



※史跡解説は該当ページを参照

癒やしと憩いのみちづくり

南区には、「香りと色彩ゆたかなまちづくり」という市民参加の活動があります。これは区民・企業・行政のパートナーシップによって、地域全体を美しい花や香りゆたかなハーブで結び、癒やしと憩いのみちをつくる活動です。

点から線、線から面に香りと色彩が広がれば、南区は歩いて楽しい魅力的なまちになっていくでしょう。



大江川緑地

大江川緑地は、もとは川だったところを埋め立てて公園化した場所で、昭和55年(1980)に完成しました。

全長約1.8km、面積は約11.5haあり、南区最大の緑地公園です。園内には約7万5千本の樹木が植えられ、細長い地形を生かして人工の川やサイクリングコースが整備されています。

緑地東端には、芝生の緑も鮮やかに開放的な空間が広がり、大きな噴水と季節の花が訪れる人の目を楽しませてくれます。

人工の川に沿って進むと木々のトンネルが迎えてくれ、新緑や紅葉の季節にはとても心がなごみます。ときに水鳥が遊ぶ姿を目にすることも。

散歩する人や家族連れも多く見られ、出会いとふれあいの場所として親しまれています。



せせらぎ水路

大同大学の南側から丹後通まで続く全長1.5kmの用水路で、大同排水路とも呼ばれます。

もとは大江新田、丹後江新田の汐貫用水路でした。海にほど近い西側の水の溜まり場には、タイやセイゴなどを養殖する養殖場もあったといひます。

昭和52年(1977)より環境整備事業として、護岸・遊歩道の整備が行われ、せせらぎを楽しみながら歩けるようになりました。地元の人たちには、水辺の散歩や魚のつかみどり、植栽など、親水空間として広く親しまれています。

平成14年(2002)から平成16年(2004)にかけて、国の補助を受けた改良工事が実施され、より歩きやすく整備されています。



ものづくり企業とハーブ園

南区は工場の多いまちとして知られ、それらの工場は中部産業の発展に大きな役割を果たしてきました。

近年では、ものづくりだけでなく、緑化活動などに力を入れ、地域に開かれた工場を目指すところも増えています。

南部にある大同特殊鋼星崎工場・三井化学名古屋工場は、道沿いにたくさんのハーブを植えて、憩いの空間を造りました。道行く人を穏やかな気持ちにするうれしい演出です。